

屏風で見る江戸時代の川越

江戸時代の安永6年(1777)、高沢町(現元町二丁目)の町名主(町を統括する役人)を務めた井上権兵衛こと梅晩堂盤雨が描いた屏風が今に残ります。この屏風は、春夏秋冬に分かれているため四季屏風と呼ばれ、作者が川越の町名主であったことから、川越周辺を描いたものだと考えられています。

屏風の特徴は、多くの子どもが描かれていることです。寺子屋で学ぶ様子(写真右上)や、こま回し(写真左上)等に興じるさまは、現在の私たちも一度は体験した原風景です。また、下の写真は秋を表し、屋台の上で演舞するまつりの一コマが描かれています。

博物館では、企画展「城下町川越の町人世界」を開催中です。ぜひ、この機会に川越町人の江戸時代の暮らしぶりに思いをはせてみませんか。

日程：11月23日祝まで 経費：入館料(200円)



川越の四季屏風(各部分・個人蔵)



農政課 ☎224-5939

ひめあやか

川越といえばサツマイモ。昔ながらのホクホクしたものから、

近ごろ人気のあるしっとりしたものまで、いろいろな品種があります。川越いも研究会会長・山田哲也さん(中台南1丁目)の農園でも栽培しているサツマイモ「ひめあやか」は、しっとりして甘みが強く、小さい食べきりサイズなのが特徴です。

「毎年、天候などの条件が違う中で、肥料の種類や量、タイミングを調整して、おいしく作るための努力をしています。同じ畑の中でも場所によって味が違うんですよ」と山田さん。

加熱すると中身は鮮やかな黄色になり、食卓に彩りを添えるひめあやかは、天ぷらからスイーツまで幅広く使えます。ちなみに、ひめあやかを毎日食べている山田さんによると「1番のおすすめは、やはり焼きイモ」。



食欲の秋、ぜひ味わってみませんか。

*購入については、市ホームページで公開中の「川越プチマルシェ～庭先販売マップ」のサツマイモ販売農家、または各直売所に、お問い合わせください。

この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜

サツマイモ、ブロッコリー、ホウレンソウ、ナス、米、コマツナ、カブ、ゴボウ、ダイコン、サトイモ

秋の気配が本格的になり、いよいよ川越まつり。どうか、さわやかな秋晴れの下で行えますように。

葉がびったりです。す。「情熱」という花言だと美しい花です。蔓珠沙華には怖い花というイメージがありました。今見ると凛として美しい花です。



ちで風に揺られていました。畑の横にはコスモス、土手には蔓珠沙華。子どものころ、蔓珠沙華には怖い花というイメージがありました。今見ると凛として美しい花です。

雨が多かった9月。「ほろ祭」が行われた18日は、やはり朝から雨でした。濡れながら撮影していると、うれしいことに、ホロシヨイツコが発射するときには雨が上がりました。子どもたちを優しい目で見つめながら「きつと、やんでくれると思っていましたよ」と、地元の方。久しぶりに雨が上がった日、カメラを手に市内を歩くと、秋の草花があちこちで風に揺られていました。

編集後記
ぶらぶら

☎ 広報川越 1376

■発行日/平成28年10月10日(毎月10日・25日発行)

■発行/川越市 〒350-8601 埼玉県川越市元町1丁目3-1 <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>
市役所代表 ☎049-224-8811 ☎049-225-2171

■編集/広報室

私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。

リサイクル適性

Fontworks
UD Font